

## 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するの当院の方針および対応

日本生殖医学会より COVID-19 に対する声明が出されました（2020年4月1日）。  
COVID-19 が妊娠に及ぼす影響について明らかになっていない事、感染時に使用される薬剤を含む治療に苦慮することなどから、不妊治療を延期するかどうかを患者様と相談すること、および採卵を予定している場合はできるだけ胚凍結を行い、胚移植時期を検討することなどが推奨されています。<http://www.jsrm.or.jp/announce/187.pdf>

しかし国の方針として妊活を中断するようという要請はありません。  
不妊治療で妊娠した場合、自然妊娠と比較し COVID-19 感染リスクやその影響が高まるということもありません。

現状での報告例は少数ですが COVID-19 に罹患した妊婦さんの出産時のリスクも極端に高いものとは言えません。また妊娠初期・中期に流産を来す可能性は低く、胎児奇形の報告も現在のところありません。

厚生労働省が4月1日に発表したコロナウイルス対策の中での妊娠中の女性向けのパンフレットでは、感染が妊娠に与える影響についても「胎児の異常や死産、流産を起こしやすいとの報告はない」と明記されています。

### 『世界の報告』

**報告 1：**Lancet（世界有数の医学雑誌）によると COVID-19 に罹患した妊婦 9 例の解析で経過や重症度は非妊婦と変わらず、子宮内感染は見られなかった。また、胎盤病理解析を行った 3 例で、母子感染は認めなかった。

**報告 2：**妊娠中に COVID-19 に罹患した 13 例の妊婦のうち、1 例で子宮内胎児死亡が報告された。⇒原因は胎児へのウイルス感染ではなく母体の重症肺炎と多臓器不全によるもの

**報告 3：**妊娠中に COVID-19 に罹患した 33 例の妊婦において、3 例に子宮内感染がみとめられ、いずれも児は救命できたが、母体 1 例では重篤な肺炎と敗血症が見られた。

**報告 4：**妊娠末期に帝王切開した 6 例中 2 例で子宮内感染のときに検出される IgM 抗体が陽性であった。

これらの現状をふまえ当面の間、当院では次のような方針で診療を行います。

今後の治療の継続または延期などについては、医師と相談の上、患者様の同意が得られ、患者様の健康状態に問題がなければ不妊治療を継続していきたいと考えております。

【患者様へのお願い】

- ・来院時には**必ずマスク**を着用してください。（マスクはご持参ください。手作りの物を含む布のマスクでも構いません。）
- ・来院時には受付にて**必ずアルコール消毒または手洗い**をしてください。
- ・少しでも発熱・倦怠感・咳・味覚異常・臭覚異常などの**体調不良がある場合には来院はご遠慮**ください。
- ・14日以内に新型コロナウイルス感染症の**流行地域から帰国**、または**新型コロナウイルス感染症の患者様と濃厚な接触があった場合の来院はご遠慮**ください。

【院内の対策】

- ・スタッフはマスクを着用し、手洗いおよびアルコール消毒を徹底します。
- ・患者様の待合室および診察室などにおいて多くの方が触れる場所の消毒清拭を頻回に行います。
- ・1時間に1回（10分程度）の換気を行います。
- ・受付だけでなく、その他の場所にもアルコール消毒を設置しています。

少しでも安心して治療ができるよう努力してまいりますので、ご協力の程どうかよろしく  
お願い致します。